

瑞穂地域審議会

提 言 書

平成26年3月12日

はじめに

雲仙市は合併から8年が経過し、雲仙市総合計画に掲げる市の将来像「豊かな大地・輝く海と、ふれあう人々で築く、たくましい郷土」の実現に向け、市民が主役・市民総参加による、市の総力を結集したまちづくりが進められておりますことに、心から敬意を表します。

さて、私たち瑞穂地域審議会委員15人は、平成24年7月に市長から委嘱を受け、第4期の委員として活動を始めました。市の総合計画や地域振興計画、前委員の提言書などを基に、瑞穂地域の課題について審議を行い、地域審議会の趣旨である、合併後も地域住民の声を新市の施策に反映させるため、「地域審議会の設置に関する事項」第3条第2項の「審議会は、必要と認める事項について審議し、市長に意見を述べることができる」を根拠として、瑞穂地域が抱えている課題について、具体性・効率性のある解決策について、市長に提言することとしました。

以降、提言書の作成に向け定例会を5回開催し、地域の様々な課題を市民目線で見つめ、現状と課題を踏まえた解決策について審議を行った結果、本地域を代表とする交流施設『千年の湯』『ふれあい会館』の利用者の拡大策「みずほすこやかランドを活用したまちづくりについて」、若者の婚活の推進策として「地域イベントによる若者の交流について」、広大な自然林を活かした利用策「みずほの森の活用について」をテーマとした、提言書を取りまとめたところであります。

委員一同、地域の課題を少しでも改善していただきたいとの思いを込め、まとめておりますので、「住みたい・住みやすい」まちづくりの実現に向けて、瑞穂地域審議会として提言いたします。

平成26年3月12日

雲仙市長 金澤秀三郎 様

瑞穂地域審議会

会長 宮崎 賢太郎



提言1 『みずほすこやかランドを活用したまちづくりについて』

1. 現状と課題

本地域を代表する交流施設、みずほすこやかランドには『千年の湯』や、宿泊施設の『ふれあい会館』、『多目的グラウンド』、『ふれあいプール』等を備えていることから、市内外のスポーツ大会や合宿地をはじめ、保養・交流施設として利用されております。しかしながら近年、『千年の湯』・『ふれあい会館』について、利用者の低迷により売上が減少し、施設の維持管理や修理に係る費用などにより運営が厳しい状況となっております。このようなことから、市民や市外者の活用を促し、利用機会の増加に向けた取り組みが課題となっております。

《特に千年の湯については》

- ・温泉井戸の水位が低下しており、将来温泉存続が懸念される。また、水位低下に伴いケーシングのスケール付着が増加してきている。
- ・水中ポンプは外国製品であるため、故障した時の納品が約6ヶ月かかることから、故障・交換に備え、常時予備の水中ポンプなどを準備する必要があるが、そのための経費もかかる。
- ・温泉利用者の7～8割は70歳以上（割引料金）の人たちで、一般の料金で入ってくる人は2～3割となっている。
- ・浴場施設の湯漏れなど、老朽化による修繕箇所が多く発生してきている。
- ・管理運営を行うための、指定管理者への市の委託費が安いことから、受入先がない状態となっている。

2. 提言

『みずほすこやかランド』のスポーツ施設やふれあい広場を活用した、子どもから高齢者まで楽しめるスポーツの場や、スポーツ大会・イベントなどにより交流人口の拡大を図るとともに、合宿の場として『ふれあい会館』、保養の場として『千年の湯』のPRを行い、利用者の拡大と、本地域への誘客に繋げる取り組みが必要です。

《取り組みにあたっては》

- ・千年の湯について、瑞穂地区の老人会の集会や「みずほ特産品まつり」「みずほ夏まつり」「ジャンボかぼちゃ大会」などで温泉入浴割引のキャンペーンや多くの市民・市外者にPRしてきたが、リピーターを増やすため、利用された方に対し割引券がついたハガキを発送するなど、積極的なPRを展開し、利用者の拡大を図る必要がある。
- ・食堂でセットメニューを割引で販売した経緯がありますが、売店等で何か1つでも、名物（地産地消メニュー）となる美味しいものを販売し、利用者の満足度を高める必要がある。また、以前のように隣接している瑞穂漁協の直売所施設も有効活用できないか検討が必要である。
- ・スポーツの合宿地として、温泉・宿泊・多目的グラウンド等が揃い、有効に利用できることをもっとPRするとともに、HP等で行事予定やイベント情報、ブログなど、常に発信していく必要がある。
- ・千年の湯やふれあい会館はサービス業であることから、市の接遇研修や単独で講師を招き職員の教育や指導を行っているようですが、継続して実施していく必要がある。
- ・すこやかランド周辺の防潮林や砂浜の清掃など、地域住民が協力して行い、参加者には入浴券を支給するなど、地域とのコミュニティーを図る必要がある。

提言2 『地域イベントによる若者の交流について』

1. 現状と課題

瑞穂地域では夏祭りをはじめ、モーモーフェスティバルやジャンボかぼちゃ大会などのイベントを開催しておりますが、企画や計画段階からの若者の参加が少なく、ボランティアも浸透していないことから、イベント時の協力者が少なくなっており、いかに地域がまとまりイベントを継続して開催していくかが課題となっております。

また、結婚をしていない若者が多く、子どもの減少が人口減少の一つの要因となっており、本地域の人口は平成22年の5,525人（国勢調査時）から10年後の32年は4,980人、20年後の42年には4,380人と推計されていることから、結婚・子どもの誕生は地域の活力のためにも急務であると考えます。

そのためにも、結婚願望がある若者に対する男女の交流・出会いの場への支援が課題となっております。

《特に》

- ・結婚していない30歳以上の若者が多く、跡継ぎがないことなどから、地域の活性化に繋がっていない。
- ・結婚したくても出会いの場がない独身者が多く、地域イベントによる交流や出会いの場の創出が課題である。

2. 提言

地域イベントによるまちの活性化のためにも、今後のまちを担う若者の協力と参加は大変重要であるとともに、イベントは男女の交流・出会いの場にもなることから、イベントを通し若者の婚活を推進し、婚姻を増やすことにより定住促進を図り、子どもの誕生や生きがいを持たせることにより個々の意欲を向上させ、「住みたい・住みやすい」まちづくりに向けた取り組みが必要です。

《取り組みにあたっては》

- ・地域のコミュニティーが希薄となっていることから、イベント開催やスポーツ、祭りなど交流事業に対し支援を行い、地域の繋がりを強化する必要がある。
- ・若者の婚活の場（見合い等）として、イベントの企画段階から若者が参加する仕組みを構築する必要がある。
- ・消極的な独身者が多いことから、婚活に向けた、話し方や話題の進め方などの研修会を開催する必要がある。
- ・昔、お見合いのお世話をしていた、通称「おせっかいオバさん」や、若者を参加させる核となるリーダーシップをとる人材の育成が必要である。
- ・島原半島三市での婚活イベントの開催を検討する必要がある。

提言3 『みずほの森の活用について』

1. 現状と課題

「みずほの森」は広葉樹など他地域にはない自然林があり、総面積36万平方メートルという広大な森林公園となっています。園内には手作り工芸に挑戦できる「クラフトハウス」やアスレチックが楽しめる「冒険の森」、キャンプ場もあることから、自然環境などを学ぶ場として適しておりますが、学校教育の場として活用されておらず、また、市内外での知名度不足もあり、利用者の低迷が課題となっています。

《特に》

- ・人工林でなく自然林の森であり、その中を約2キロにわたり散歩ができる散策路が整備されているが、あまり知られていない。
- ・岩戸神社は県の新観光百選にも選定され、パワースポットがあると言われている。
- ・キャンプ場は夏休み期間中のみの開設となっている。

2. 提言

「みずほの森」は、豊かな自然の中で、広大な森に広がる憩いとやすらぎの空間をもたらすとともに、自然林などを学ぶ教育の場となることから、市民及び市外者にもPRを行い、観光資源や地域の賑わいの場として活用する必要があります。

《取り組みにあたっては》

- ・以前は、中学一年生の宿泊体験や「クラフトハウス」で木工教室を実施していたが、市内全小中学校で「みずほの森」を見学するなど、教育の場としての活用を図る必要がある。
- ・地域住民が講師となる手作り工芸教室などの催しを行い、また、静寂な中での音楽祭などの市内外からの誘致によるイベント計画をたて、「みずほの森」の利用者を増やす必要がある。